



令和8年3月19日

京都大学記者クラブ加盟各社 御中
在阪民放四社京都支局協議会加盟各社 御中

京都大学所蔵「建内記」が重要文化財に指定されます

京都大学附属図書館および総合博物館が所蔵する古記録「建内記（けんないき）」（自筆本）が、新たに国の重要文化財に指定されます。（令和8年3月26日、文化審議会の答申（国宝・重要文化財（美術工芸品）の指定等））

「建内記」は室町時代の政治・社会の情勢を伝える極めて貴重な史料です。研究者による「菊亭文庫」の調査成果が、このたびの重要文化財指定へと結実しました。

「建内記」は、室町時代の貴族・内大臣の万里小路時房（までのこうじ ときふさ）の日記です。「建内記」は「けんないき」とも読み、時房の法号「建聖院」と彼の極官「内大臣」に由来します。現存するのは応永21（1414）年から康正元（1455）年のうちの17年分です。

「建内記」は、当時の朝廷・幕府政治の実像や土一揆の発生などを記録した重要史料として知られています。今回重要文化財指定の対象となったのは、附属図書館が所蔵する自筆本17点（菊亭文庫）と総合博物館が所蔵する2点（元文学部国史研究室蔵）および関連史料である附（ついたり）1点（菊亭文庫）です。

「建内記」が含まれる「菊亭文庫」とは、西園寺家の一門である菊亭家（今出川家）に伝来した史料群で、大正時代に京都大学へ永久寄託されました。2020年度に新たな関係資料とともに改めて菊亭家から京都大学に寄贈されたことを契機に、翌年から上島享教授、大槻信教授（文学研究科）を中心に、学内外の研究者や大学院生、図書館職員等が協働して「菊亭文庫」の網羅的な調査を行っています。「菊亭文庫」の全体像を明らかにすることを目的とした調査の成果が、このたびの重要文化財指定へとつながりました。

京都大学図書館機構では、所蔵する貴重な古典籍資料をデジタル化し、研究者のみならず市民のみなさまや世界中の方々にも見ていただけるよう、オンラインで公開する取り組みを進めています。今回重要文化財に指定される「建内記」も、新たに「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」から公開を始めました。

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00031827/explanation/kennaiki>

また、このたびの重要文化財指定を記念し、2026年9月に京都大学総合博物館を会場に「建内記」のお披露目展示および講演会を開催します。およそ六百年の歴史を受け継いだ実際の自筆本を間近にご覧いただける貴重な機会となります。

[附属図書館長のコメント]

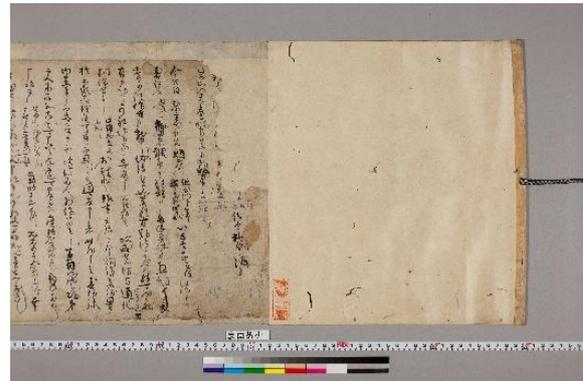
本学で長年にわたり大切に保管してきた「建内記」が、その学術的価値を認められて重要文化財に指定されることを大変嬉しく思います。貴重な文書・典籍を寄贈して下さった菊亭家の方々、また「菊亭文庫」を調査してきた学内外の研究者・大学院生の皆さんに篤く御礼申し上げます。京都大学は今後もこの貴重な文化遺産を後世に伝え、その価値を発信してまいります。

京都大学附属図書館長 永盛克也

[写真]



透漆塗桐俵鈍箱(すきうるしぬりきりけんどんばこ)に入った「建内記」



「建内記」の巻頭部分



「建内記」を見る、左から永盛附属図書館長、大槻文学研究科教授、湊長博京都大学総長、上島文学研究科教授



湊総長(右)と永盛附属図書館長(左)

以上

本件連絡先：京都大学附属図書館総務課総務掛
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Tel: 075-753-2691
E-mail: soumu660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp